

桜色の思い出

法中校長室通信

路草みちくさ

R8.3.8

文責：船越 路央



卒業前日に思い出すのは...

- ◇「日本一美しいトイレにするぞ」と宣言し、便器を磨いた人
- ◇国語の点数アップ対策で、休憩時間に質問に来た人
- ◇校長の無茶なコント台本に付き合い、練習してくれた人
- ◇「将来は韓国語をマスターします」と未来を語ってくれた人
- ◇「しゃーね魂注入する字(Tシャツ)を書いて!」と懇願した人
- ◇ピアノ演奏を頑張った友の背中をそっと抱いた人
- ◇小説家になりたい夢を熱く語ってくれた人
- ◇「お陰様で合格しました」と丁寧に辞儀してくれた人
- ◇法勝寺川で捕獲した天然すっぽんを見せてくれた人
- ◇南部町の自慢コーナーに「校長!」と書いてくれた人
- ◇毎月、自慢のイラストを描いて見せてくれた人
- ◇移動教室の時にはみんなの椅子を整頓してくれた人
- ◇レース本番一時間前でも、方程式を解いていた人
- ◇膝をついて丁寧に廊下掃除をしていた人 ...他多数



言葉学 ~冬季オリンピック2026より~

「こういうオリンピックの舞台で、そういう苦い経験とか...またどんな強い力でやっていければ金メダルに届くんだろうっていうような...**凄い想像力が湧く**ような今日一日になりました!」

五輪新種目「デュアルモーグル」の決勝まで進んだ堀島行真さんの言葉です。

最後まで絶対王者キングスバリー選手に果敢に挑んだレースでしたが、念願の金メダルにはあと一步届きませんでした。レース直後はさすがに悔しそうにコースを見上げましたが、その気持ちを顔に出さず、支えてくれた家族にまず感謝を伝えた堀島選手の姿に心を打たれました。「凄い想像力が湧く」...私のような凡人は、この言葉の奥底までわかりかねますが、敗北を瞬時に前向き変換し、4年後に優勝する自分自身を描いてワクワクされていたのだとすると、負けることは勝つこと以上に底知れぬエネルギーを生むのだと知りました。

タイトル「路草みちくさ」に込めた願い

「このご時世において何を言うのだ!」とお叱りの声もあると思いますが、私は「道草賛成派」の一人です。調べてみると日本にはいらっしゃるのですね、道草研究の先生が...その方の言葉をお借りすると、道草とは、「無駄な時間に多様な価値観を見だし、浮かび上がらせていくこと」らしいです。『子どもの道くさ』、水月昭道/著、東信堂より)しかし、道草の時間が、その後の進路や成功に結びついたという話もよく耳にします。ただし、「正しい道草」じゃないと、意味がないと思います。私は本校に5年間勤める中で、その正しい道草がここ法勝寺町では可能だという確信ができあがりました。早く帰りなさい...早く勉強しなさい...早く準備しなさい...と、早く早く子どもを急かすのではなく、ゆっくりと好きなことに没頭させながら、そのスローな感覚を、安心・安全な環境下で味わわせてやりたい...その想いでタイトルを付けました。1年間、通信のご愛読、ありがとうございました。



生徒の名言

(3年間ぶりにかえってみると...)
★「いってらっしゃい!」おかえり! はやば... うれしかったですな... (24)

しゅう 棕櫚の樹の つぶやき

「昭和53年に今の校舎ができた時から今まで、酷暑にも風雪にも地震にも耐え、推定7mまで高くなりましたが、ついに寿命を迎えることになりました。生徒玄関前のシンボルツリーのような存在として、生徒みんなに可愛いらしいいただき、感謝の気持ちでいっぱいです...今まで本当に有難うございました。」(涙) 〆